

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103862
法人名	ティーエムコーポレーション
事業所名	グループホームすみれの里
所在地	松山市南高井町1808-4
自己評価作成日	平成 23 年 8 月 28 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとり利用者様の事を考えその人にとって何が必要か考えながら支援している。入浴の時間など利用者様の希望に沿うよう一日を過ごして頂いている。家族様や利用者様との関係も大事にしており、信頼関係を築くようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田畑の広がる郊外にある事業所で、周辺に民家は少なく日常的な付き合いは難しい立地であるが、民生委員等との良好な関係は構築されており、可能な範囲で交流を行っている。事業所内は落ち着いた雰囲気であり、安定した机やすい、ソファが置かれ読書やテレビ鑑賞等思い思いのことをしながら、利用者のペースでゆったりと生活できている。また、職員の声かけやケアは優しく、利用者に安心感を与え、事業所内で飼われている猫やうさぎに心を癒されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームすみれの里
(ユニット名)	しばもち
記入者(管理者)	
氏名	若松紀代
評価完了日	23年 8 月 28 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所全体の理念ではあるが、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念となっている。誰もが見える位置に掲げ、ユニット会議時に読んでいる。</p> <p>(外部評価) 法人の理念を理解しやすい具体的なものに変えたため、現在はそちらを事業所の見やすいところに掲げ実践している。職員はユニット会で理念を振り返り、より良いサービスが提供できるように話し合っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 散歩の時、近所の人達にあいさつしたり、近所の畑に花を観に行ったり、近くのコンビニやパン屋さんなどの方とはお話ししている。</p> <p>(外部評価) 事業所の周辺には民家が少なく日常の付き合いが難しい立地であるが、隣接する美容室に駐車場を借りる等できる範囲で交流を行っている。民生委員とは良好な関係が構築されており、庭に咲いた花を見せてもらう等、普段から付き合いができています。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 夏祭りやクリスマス会に近所の方や民生委員さんに参加を促したり、近くの神社のおもちまきに参加している。地域の方と利用者が接する機会を作っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は、2か月に1回行っておりホーム内の状況を報告したり、参加して頂いている方との情報交換も行えている。多くの職員にも参加して頂き、職員の質の向上にも努力している。	
			(外部評価) 市や地域包括支援センター職員、家族等の参加を得て2か月に1回定期的に開催している。地域包括支援センター職員に成年後見制度の説明をしてもらったり、薬剤師に薬のことについて講義をもらう等、勉強会を兼ねて行うこともある。	記録についての様式が統一されていないため、後で読み返して分かりやすいような記載方法や様式について検討するよう望みたい。また、参加できない職員に対して記録の回覧等は行われておらず、参加した職員との情報の差が生じることが懸念されるため、記録を全職員に回覧するような仕組み作りを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議の時に、報告を行っており協力関係を築くよう努力している。密に連絡は取っていないので、今後の課題である。	
			(外部評価) 運営推進会議に参加をした際に、相談や話し合いを行う等、良好な関係が構築されている。また、生活保護を受給している利用者について担当課の職員が定期的に生活状況を確認しており、連携を取りながら利用者の生活が安定して送れるよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は、しないのが当たり前なので、職員は把握している。分からない場合などには、職員同士でコミュニケーションも取れている。研修等があれば参加して頂いている。	
			(外部評価) 言葉での拘束について、管理者やユニット長は気が付いた時に注意を促している。職員も言葉遣いには気を付けるようにしている。玄関等の施錠は行っていないが、交通量の多い道路に面しているため事故がないよう、職員はしっかり見守りを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待というと殴る、食事を食べさせないなど大きな事は皆知っていると思うが、細かい虐待や言葉の虐待など、職員が知らず知らず使っている言葉も虐待に当てはまったりするので、虐待についての勉強会などを行い、虐待防止に努めていきたいと思う。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) おもに、管理者が制度など行っている為、職員は制度についてあまり理解していない。今後、勉強会などを行っていきたい。運営推進会議で、制度を利用しようとしている家族と一緒に勉強しました。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約などは、管理者がおもに行っており、面談等で話したことは、スタッフにも伝わっており、家族様等の不安などは、把握している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議を行っており、その時に家族様にも参加していただくように努力している。参加出来ない場合には家族様の意見等を話す機会を設け、家族様の意見、要望を把握するようにしている。	
			(外部評価) 面会の時等に要望や意見を聞き取るようにしている。自室にテレビを置きたい等の希望が出たことがあり、職員全員で話し合い、可能な限り受け入れるようにしている。結果については利用者や家族に説明している。また、1か月に1回は様子を家族に伝えるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1度ミーティングを行っているので、その時に管理者、職員の意見交換を行い運営に反映させている。 (外部評価) ミーティングの時に職員から意見や要望があり、管理者は本部の総括部長に伝えている。出された意見や要望についての回答は迅速に行われており、職員にも説明がされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) もう少し資格を持っている方、ユニット長など給料やボーナスに差をつけ、職員のやる気につなげてほしい。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修などにはあまり行けていないので、今後は積極的に研修に参加し、いろいろと勉強の場を作っていく。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 施設は沢山ありますが、なかなか交流という事はなく集まったり、行ったりという事がない。管理者が会議に行ったときに他の施設の事を聞くぐらいなので、他の同業者との交流を図っていききたいと思う。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者、ユニット長が代表で面談に行く事が多いので、サマリーなどで職員はその方の事を把握し、どういうケアをしていくかは、入所の前後にミーティングを行い本人様との関係を築くよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族様とのコミュニケーションは取れており、家族様の気持ちを受け止め、耳を傾けるよう努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者様、家族様の要望等を理解し、それに添えるよう努力している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者様の気持ちになって、毎日と一緒に喜怒哀楽を共に出来るような関係を築けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様との信頼関係を築き、利用者様の生活を共に支えていけるよう努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者様の希望があれば、行きたい所に行かれたり、知人などが面会に来れば話しやすい環境を作り、関係が継続出来るように支援している。 (外部評価) 家族や知人と外出を希望する際には支援を行ったり、面会時に一緒に食事をしてもらえよう事業所で食事を用意する等、馴染みの関係を継続できるよう取り組んでいる。また、事業所内で新しい馴染みができるよう利用者同志の良好な関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 要介護度の異なる方々なので、中々お互いを助け合ったり、支えあったりが難しいが支援するよう努力している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了し住み替えが必要になった時には、こちらで持ち得る情報を詳しく伝えるようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 現実に無理な希望や要望がある場合は難しいが、一人ひとりの思いなどを把握し支援するよう努めている。	
			(外部評価) 利用者のしたいこと等を聞き取りながら、可能な限り対応している。思いを伝えられない利用者については、家族に聞いたり、過去の資料から思いを汲み取り利用者本位になるよう努めている。知り得た情報は毎日の記録に記載するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時の情報をもとに生活していく中で本人様や家族様からお聴きし、得た情報はスタッフ皆で共有するようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活の中で思わぬ行動を取ったり、昨日出来た事が今日は出来なかったりして、中々一人ひとりの力を把握するのが難しく場当たりの支援になっているところがある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画を作成する時には、職員などの意見、アイデア等を反映し、日常生活の中での気づき等を報告してもらい、介護計画を作成している。	
			(外部評価) 職員全員でカンファレンスを行い、管理者と計画作成者でまとめている。できた介護計画は法人本部の方から家族に送っている。介護計画の実施状況についてはケアプラン実施表を試験的に作成し、数値化したり目標達成状況を可視化する等の取組みを行っているところである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 変わった行動や言動があれば、出来るだけ鮮明に記録するよう心掛けており、職員間で情報を共有し介護計画等の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ニーズに対応した柔軟なサービス等はあまり出来ないが、本人様や家族様にとって満足して頂けるよう、常に心掛けている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 散歩、買い物、お出かけ等その人にあった豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人様や家族様の意見を大事にし、その人にあった医 療を受けられるよう支援している。かかりつけ医との 関係も大事にしている。</p> <p>(外部評価) 協力医療機関からの往診を全利用者受けているが、以 前からかかっている病院にも受診できるよう職員が通 院介助を行う等、適切な医療が受けられるよう支援し ている。インフルエンザの予防接種等も体調の状況 や、利用者や家族の希望に応じて行っている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 日常の中で気がついた事は看護師に報告し、受診が必 要か判断している。訪問診療の時にも、先生や看護師 に気づいた事を報告し、適切な受診が出来るよう支援 している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院中には病院関係者と情報交換や相談を行ったり、 家族様の意見も聞き利用者様にとってどういった治療 が良いのか話あえている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化や終末期をむかえた時には、家族様と話し合い 今後の方針を決め事業所で出来る事はしている。</p> <p>(外部評価) 協力医療機関は在宅医療に力を入れており、看取りに ついての協力も得られるよう体制が整っている。事業 所としては看取りの経験もあるが、新しい職員もいる ことから協力医療機関の看護師に看取りについての講 義をしてもらう等の取り組みをしている。利用者の状 況の変化に応じて、家族との話し合いもその都度行っ ている。</p>	緊急時の対応や利用者が服用している薬についての研 修を行う等、職員の資質向上について取り組んで行く よう望みたい。また、看取りの指針に基づいた職員同 志の話し合いや意見交換をする機会を設け、看取りに ついての心構えや対応方法等について意思の統一を図 る等より一層の取組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) スタッフ一同何をすれば良いのか把握しているが、介護士しかいない場合もあるので、その時の応急手当には課題が残る。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回避難訓練を行っており、その都度違う設定で行っており、スタッフ全員にも参加してもらい避難の確認もしている。消火器の使い方も把握している。 (外部評価) 災害対応マニュアルは法人で作成している。スプリンクラーの設置も完了し、避難訓練も定期的に行っている。災害時は民生委員に連絡をするようになっており、協力してもらえる。	緊急連絡網を活用しての情報伝達訓練を実施するよう希望したい。食器棚等の固定や備蓄について検討し、利用者が安全、安心して暮らせるよう今後の取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとり人格は違うので、一人ひとり違った対応を行い、人格を尊重している。プライバシーには気をつけ、排泄や入浴の時などには、必ず戸を閉めている。言葉使いにも気をつけて行っている。 (外部評価) 利用者個人の介護記録についてはユニット入口の棚にまとめて置き、カーテンをして人目に触れないように保管している。入浴やトイレ介助の際に他の利用者等に見えないよう配慮している。職員は利用者のプライバシーや人格の尊重を常に心がけながら、日々のケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定出来る様に働きかけたり、本人様の思いなどを聞くために積極的にコミュニケーションを図る様に努力している。一人ひとり思っている事は違うのでその人にあった支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 常にその人らしい暮らしを支援して行きたいと心掛けているが、希望にそっては実践出来ていない。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 整髪、ひげそり、洋服のコーディネート等その人らしさを表現出来るように支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 会話が可能な利用者様には好みを聞き出来るだけ取り入れているが、食事の準備、片付け等は一緒に行えていない。リクエストメニューも実地している。台拭き、下膳等は出来るときは手伝ってもらっている。	
			(外部評価) ユニットごとで利用者の希望を聞きながら献立を考え材料を注文している。利用者の健康を考え野菜を多く使う様な献立を心がけ、薄味に味付けされている。職員は利用者の間に座り同じ食事をしながら、楽しく食事ができるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が考えた献立ではないが、職員が話し合いながら栄養面でも十分考慮している又、個々に合わせた食事の量となっている。水分確保においては毎日水分摂取表を基に支援出来ている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に本人に応じた口腔ケアを実践出来ている。一人で行えない場合には、スタッフが支援している。ケア後は確認もおこなっている。週1回歯科衛生さんが来られるので相談にもものってもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとり排泄パターンが違うので、時間や記録をみて把握している。その人にあった排泄の支援を行っている。	
			(外部評価) 必要に応じて排泄チェック表を用いて排泄の状況を把握している。基本的にはトイレでの排泄を目指しているが重度の利用者が多く、状況に合わせて排泄の介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々に応じた取り組みを実地している。下剤の服用、運動、食物繊維の摂取などです。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者様の希望で入浴する事は難しいが、なるべく利用者様の希望に沿うよう努力している	
			(外部評価) 利用者の希望により時間や回数に違いはあるが、入浴が楽しみの一つになるよう支援をしている。急な入浴希望も可能な限り対応している。1階に機械浴を設置し、介護度が高い利用者でも安全で安楽に入浴することができるよう環境を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転気味の利用者様があり、その方の入眠パターンが難しいですが、昼夜を問わず利用者様が安心して入眠出来るよう支援は行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) スタッフ全員が利用者様の服用の目的、副作用は理解出来ていない。服薬する事で症状の変化など注意して確認するよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 外食に出かけたり、気分転換にドライブや散歩などに出かけている。一人ひとり役割を持って生活して頂くよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとり希望には沿えていないが、外出出来る時には外出出来ている。家族様にも協力して頂くよう働きかけているが、地域の人々との協力は出来ていない。	
			(外部評価) 利用者の体調を考慮しながら、日常的に近くの公園等に散歩に行ったり、パンを買いに行ったりしている。また、ユニットごとに計画を立て季節の花等を見に行ったり、外食をする等、利用者が楽しく過ごせるよう企画されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者様がお金を所持することは難しいが、希望に応じて利用者様と一緒に買い物に出かけている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者様の希望に応じてスタッフが間に入る事もあるが家族様などの関係を大事にするように支援を行っている。手紙を預かって投函している、電話も時々かかってくる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関には季節の花、リビング廊下には季節の壁面飾り等を貼るようしており、トイレには詩や言葉の書かれた紙を貼っている。	
			(外部評価) リビング等の壁には、行事やお祭りの写真が飾られ、楽しい雰囲気が伝わってくる。トイレや浴室等は清掃が行き届き嫌な臭いもなく清潔である。また、リビングには安定した机やいす、座り心地の良いソファが配置され思い思いの場所でくつろぐことのできる環境が整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共同空間の中で独りになれる場所は居室しかないが、気の合った利用者様同士がお話し出来るよう席を隣にしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入所時にはご自分の使い慣れた物を持って来ておられ、ホーム内の生活においても愛着や思い出のある中で暮らされている。	
			(外部評価) 使い慣れた物を持ち込み、家族の写真やお気に入りの置物等が飾られ、利用者の個性に合わせた落ち着いたことのできる空間づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 危険防止の為の対応は出来ており、認知症が進んでいく中で、だんだん出来る事が減ってくるので1日の生活をよく観察してきめ細かく対応するようにしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103862
法人名	ティーエムコーポレーション
事業所名	グループホーム すみれの里
所在地	松山市南高井町1808-4番地
自己評価作成日	平成 23 年 8 月 28 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一年間通じてお出かけがあり、回数じたいは少ないが人ごみより自然の中にと考えている。自然の中にお出かけすると、利用者の生き生きした笑顔がみられる。朝食は各自目を覚ませた方から摂って頂き夜の睡眠に妨げないように考慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田畑の広がる郊外にある事業所で、周辺に民家は少なく日常的な付き合いは難しい立地であるが、民生委員等との良好な関係は構築されており、可能な範囲で交流を行っている。事業所内は落ち着いた雰囲気であり、安定した机やすい、ソファが置かれ読書やテレビ鑑賞等思い思いのことをしながら、利用者のペースでゆったりと生活できている。また、職員の声かけやケアは優しく、利用者に安心感を与え、事業所内で飼われている猫やうさぎに心を癒されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 すみれの里

(ユニット名) かりんと

記入者(管理者)
氏名 若松紀代

評価完了日 23年8月28日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員や来客者の目につきやすい場所に掲示し、理念に基づき日々のケアに取り組んでいます。	
			(外部評価) 法人の理念を理解しやすい具体的なものに変えたため、現在はそちらを事業所の見やすいところに掲げ実践している。職員はユニット会で理念を振り返り、より良いサービスが提供できるように話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 散歩に出かける時など、近所の方にあいさつをしたり、近所のコンビニなどの方にお話しできる時には、声をかけ話している。	
			(外部評価) 事業所の周辺には民家が少なく日常の付き合いが難しい立地であるが、隣接する美容室に駐車場を借りる等できる範囲で交流を行っている。民生委員とは良好な関係が構築されており、庭に咲いた花を見せてもらう等、普段から付き合いができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議やグループホームでの催し物を通し、ホームでの生活を見ていただいています。又、気軽に見学できるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一回会議を開き、地域の方と情報を交換している。利用者様にも参加して頂き、話をして頂いている。	
			(外部評価) 市や地域包括支援センター職員、家族等の参加を得て2か月に1回定期的に開催している。地域包括支援センター職員に成年後見制度の説明をしてもらったり、薬剤師に薬のことについて講義をもらう等、勉強会を兼ねて行うこともある。	記録についての様式が統一されていないため、後で読み返して分かりやすいような記載方法や様式について検討するよう望みたい。また、参加できない職員に対して記録の回覧等は行われておらず、参加した職員との情報の差が生じることが懸念されるため、記録を全職員に回覧するような仕組み作りを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議やグループホームでの催し物を通し、ホームでの生活を見ていただいています。又、気軽に見学できるようにしています。	
			(外部評価) 運営推進会議に参加をした際に、相談や話し合いを行う等、良好な関係が構築されている。また、生活保護を受給している利用者について担当課の職員が定期的に生活状況を確認しており、連携を取りながら利用者の生活が安定して送れるよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は、しないのが当たり前との理解のもと、職員全員把握している。身体拘束についての勉強会（ショートミーティング）などで、スタッフ全員が理解できるように努めている。	
			(外部評価) 言葉での拘束について、管理者やユニット長は気が付いた時に注意を促している。職員も言葉遣いには気を付けるようにしている。玄関等の施錠は行っていないが、交通量の多い道路に面しているため事故がないよう、職員はしっかり見守りを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティングの時などに意見交換し、未然に防ぐようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会などに参加し、日々のショートミーティングなどで報告、話し合いを行い、皆で学ぶ機会ををって、必要な時に活用できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約に至るまでに不安や疑問点等を尋ね、時間をかけて説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 来所の最、積極的に声掛けを行い、意見等お聞きするようになっている。玄関に意見箱を設置し、いつでも自由に投稿できるようにしている。また、運営推進会議へ参加していただけるよう努力している。	
			(外部評価) 面会の時等に要望や意見を聞き取るようにしている。自室にテレビを置きたい等の希望が出たことがあり、職員全員で話し合い、可能な限り受け入れるようにしている。結果については利用者や家族に説明している。また、1か月に1回は様子を家族に伝えるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月に一度のミーティングの最、意見交換を行い、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。</p> <p>(外部評価) ミーティングの時に職員から意見や要望があり、管理者は本部の総括部長に伝えている。出された意見や要望についての回答は迅速に行われており、職員にも説明がされている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 長く務めた方や、資格を持っている方など、給料や賞与に差をつけ、職員のやる気につなげてほしい。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修会などに参加を促してはいるが、あまり参加できていない。今後積極的に参加し、知識や情報を共有できるようにしたい。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 他の同業者との交流はなく、また、同グループでの交流もあまりない。たまに研修等で他の施設に行く程度と管理者は同グループ内での意見交換を行っており、そこでの意見を聞く程度</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 生活歴を踏まえて本人の行動を把握し、不安に思っている事、困っている事を探り、解決できるように努めている。また、サマリーなどで職員全員がその方の事を把握するようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 不安や要望に耳を傾け、家族様が納得されるまで話をし、信頼関係が築けるよう心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族様とのコミュニケーションは取れており、不安や要望に耳を傾けるように努力している	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 今必要としているサービスを探り、提供できるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者様の気持ちになって、毎日の生活を共に歩んでいけるように努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) これまで通っていた病院など、可能であれば引き続き利用していただけるよう努めている。電話の取次ぎや、面会も自由にして頂き、なじみの関係が切れないうように支援している。	
			(外部評価) 家族や知人と外出を希望する際には支援を行ったり、面会時に一緒に食事をしてもらえよう事業所で食事を用意する等、馴染みの関係を継続できるよう取り組んでいる。また、事業所内で新しい馴染みができるよう利用者同志の良好な関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様もさまざま、お互いが支えあったり、が難しいが、会話やお手伝いなどを通して、協力し、支えあえるように努力している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された後も、お手紙や電話などで連絡を取り、必要などときには相談に乗れるよう努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 無理な希望や要望はできないことはあるが、なにかがしたいという思いや希望を具体的にお聞きするように、心がけている。 (外部評価) 利用者のしたいこと等を聞き取りながら、可能な限り対応している。思いを伝えられない利用者については、家族に聞いたり、過去の資料から思いを汲み取り利用者本位になるよう努めている。知り得た情報は毎日の記録に記載するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活歴をお聞きし、知り得た情報はスタッフ同士で共有できるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人それぞれの過ごし方は、その日の精神状態等できめている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 情報を共有し、利用者様、ご家族様、職員の意見など を反映し、作成を行っている。	
			(外部評価) 職員全員でカンファレンスを行い、管理者と計画作成 者でまとめている。できた介護計画は法人本部の方 から家族に送っている。介護計画の実施状況につ いてはケアプラン実施表を試験的に作成し、数値 化したり目標達成状況を可視化する等の取組み を行っているところである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 具体的な会話や、心配ごと、身体的な事の細 かな記入を行い、職員間で情報を共有し、介 護計画等の見直しに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 事業所の多機能化、と言われても既存のサー ビスしか利用出来てない。その都度のニーズ は出来るだけ柔軟な支援出来る様心がけて いる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 散歩や、買い物、ドライブなど、豊かな暮 らしを楽しむことができるように支援してい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 医療提携を取っているクリニックの往診も受けなが ら、入所前よりかかられていた、なじみの病院へ通院 されている方もいる。</p> <p>(外部評価) 協力医療機関からの往診を全利用者受けているが、以 前からかかっている病院にも受診できるよう職員が通 院介助を行う等、適切な医療が受けられるよう支援し ている。インフルエンザの予防接種等も体調の状況 や、利用者や家族の希望に応じて行っている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 職場に看護師が、毎日ではないけれどいるので、その 都度相談しながら利用者が適切な治療や受診を受け れるように支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院された時にはできるだけ面会に行き、様子をうか がっている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) ご家族様と話し合い、できるだけ意見に沿えるように 話し合っている。ホーム内でできる事を伝えている。</p> <p>(外部評価) 協力医療機関は在宅医療に力を入れており、看取りに ついての協力も得られるよう体制が整っている。事業 所としては看取りの経験もあるが、新しい職員もいる ことから協力医療機関の看護師に看取りについての講 義をしてもらおう等の取り組みをしている。利用者の状 況の変化に応じて、家族との話し合いもその都度行っ ている。</p>	緊急時の対応や利用者が服用している薬についての研 修を行う等、職員の資質向上について取り組んで行く よう望みたい。また、看取りの指針に基づいた職員同 志の話し合いや意見交換をする機会を設け、看取りに ついての心構えや対応方法等について意思の統一を図 る等より一層の取組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故対応のマニュアルが置いてあり、日々参考している。又、ショートミーティングなどで話し合っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行っており、消防署の方に指導を行ってもらっている。火元の設定、避難場所の設定も行っている。 (外部評価) 災害対応マニュアルは法人で作成している。スプリンクラーの設置も完了し、避難訓練も定期的に行っている。災害時は民生委員に連絡をするようになっており、協力してもらえる。	緊急連絡網を活用しての情報伝達訓練を実施するよう希望したい。食器棚等の固定や備蓄について検討し、利用者が安全、安心して暮らせるよう今後の取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとり違った対応を行い、人格を尊重している。排泄介助や、入浴などにはプライバシーの確保に努めている。 (外部評価) 利用者個人の介護記録についてはユニット入口の棚にまとめて置き、カーテンをして人目に触れないように保管している。入浴やトイレ介助の際に他の利用者等に見えないよう配慮している。職員は利用者のプライバシーや人格の尊重を常に心がけながら、日々のケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) その人にあった支援ができるように働きかけているが自己決定できない人がおおいので、行動、表情、等でなんとか支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人らしい生活、生活リズムで暮らせるように支援していきたいと思っているが、希望にそっては支援できていない。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望に沿うように、髪型や、服装、清潔に気を配っている。その人らしさが表現できるように支援を行っている。希望がわからない人は家族と相談しながら支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 本人の意思や能力に合わせ、無理のない程度に手伝っていただいている。(野菜の筋取り、皮むき等)好みの食べ物をお聞きし、メニューに取り入れるようにしている。	
			(外部評価) ユニットごとで利用者の希望を聞きながら献立を考え材料を注文している。利用者の健康を考え野菜を多く使う様な献立を心がけ、薄味に味付けされている。職員は利用者の間に座り同じ食事をしながら、楽しく食事ができるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や、食事内容をその人の状態にあわせて、刻んだり、ミキサーをかけたりしている。必要に応じてとるみも使用している。栄養面は職員同士で話し合いながら配慮している。水分量は毎日水分摂取表を付け、それをもとにかんがえている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ご自身で行えない方は、職員が手伝い、仕上げを行っている。毎食後口腔ケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを探り、訴えの少ない方には声掛けを行い、誘導を行っている。	
			(外部評価) 必要に応じて排泄チェック表を用いて排泄の状況を把握している。基本的にはトイレでの排泄を目指しているが重度の利用者が多く、状況に合わせて排泄の介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄記録を行い、出ていない人には下剤を飲んでいただいている。牛乳などの乳製品も取り入れている。食物繊維なども積極的に取り入れている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望とおりの入浴時間で、入浴する事は難しいが、なるべく希望に添えるように努力している。	
			(外部評価) 利用者の希望により時間や回数に違いはあるが、入浴が楽しみの一つになるよう支援をしている。急な入浴希望も可能な限り対応している。1階に機械浴を設置し、介護度が高い利用者でも安全で安楽に入浴することができるよう環境を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 暑かったり、寒かったりがないように温度や、布団の調整を行っている。また騒音などにも気を配っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ファイル、薬の仕分けを行い、個人別に保管してある。病状変化があった場合は、かかりつけ医に相談し、指示を仰いでいる。薬の変化があった時には、その都度、口頭、連絡ノートで情報を共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 買い物や、ドライブなど、気分転換を行っている。お皿拭きや、洗濯たたみなど、それぞれできることの支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人に対しての希望には沿えていない。また家族様にも協力していただけるように、働きかけているが、全員にはできていない。地域の方との協力体制も十分とはいえない。	
			(外部評価) 利用者の体調を考慮しながら、日常的に近くの公園等に散歩に行ったり、パンを買いに行ったりしている。また、ユニットごとに計画を立て季節の花等を見に行ったり、外食をする等、利用者が楽しく過ごせるよう企画されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を所持して使うことは難しいので希望に応じて買い物には出かけている。職員と一緒に行って購入する事もある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が電話をしたいと言うときには、自らすることが出来ないので、職員がその時々に応じて電話している。ただし時間の制限は設けてある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共有の場にはテレビやソファを置き、くつろげるようにしている。また、大きな手作りカレンダーを張っており、今が何月か分かるようにしている。季節に応じた壁画なども利用者様とともに制作している。	
			(外部評価) リビング等の壁には、行事やお祭りの写真が飾られ、楽しい雰囲気が伝わってくる。トイレや浴室等は清掃が行き届き嫌な臭いもなく清潔である。また、リビングには安定した机やいす、座り心地の良いソファが配置され思い思いの場所でくつろぐことのできる環境が整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気の合った仲間同士でお話し出来る様にソファなどを置いて利用して頂いている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 室内には、昔から使っている物、愛着のあるもの、タンスやちゃぶ台など持ってきていただき、居心地よく過ごしていただいている。	
			(外部評価) 使い慣れた物を持ち込み、家族の写真やお気に入りの置物等が飾られ、利用者の個性に合わせた落ち着いたことのできる空間づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物内はバリアフリーになっているし、居室のなかも一人一人の有する能力を生かした居室になっている。	